

茨城調査時報



目次

新年のあいさつ	1
就、離任のあいさつ	2
新市町村の横顔	4
毎月勤労統計調査結果速報	5
昭和30年度学校基本調査結果(その2)	9
昭和30年度学校衛生統計調査の結果概要	14
日本における統計の発展について	15
夏期農業基本調査の結果概要(その1)	17
昭和29年工業調査結果速報(その4)	21
生産動態調査結果	25
[創作] 青春	29
統計用語の解説・編集室	30

1956.1



新 年 の あ い さ つ

茨 城 県 知 事 友 末 洋 治
茨城県統計協会総裁

明けましておめでとう存じます。

ここにすがすがしい昭和81年の初春を迎え、まづもつて皆さんのいやます幸福と繁栄とを心から慶祝申し上げます。顧みますれば、昨年は国勢調査をはじめ、各種の重要な調査が相次いで実施されたにもかかわらず、関係各位のたゆまざる御努力と絶大なる御協力とにより、幾多の困難をよく克服して、ここに輝かしい成果を収めることのできたことは、誠に感謝に堪えないところであります。

申すまでもなく、本年はその所のいかに問はず、政治行政も財政経済も、はたまた産業文化も、ともに平和と安全、幸福と繁栄とを一途に求めて、分散から集中へ、孤立から協同へ、あるいは不安定不均衡から安定均衡へと、それぞれその方向を大きく転換しようとしております。

私どもの福祉茨城の振興は、この時代の大きな流れにびつたりと添いながら、あくまでも財政の健全化の基礎を築き上げつつ、新しい機構を人の和によつてしっかりと固めて、これを着実に推し進めたいと存じます。

これがためにはまず、科学的な統計資料を基礎として、あくまでも客観情勢に即応したところの総合的な施策を打ち立てなければならないのでありまして、今回の機構改革によつて、調査企画課の発足をみた所以もまたここにありするのであります。

今後国の委託事業は申すに及ばず、県自体における各種の調査統計事務をさらに充実強化するとともに、統計技術の改善向上とその効率化を計り、調査統計事業をして真に県政の礎石たらしめたいと存じます。

調査統計関係者におかれましては、この大きな使命を十分に認識され、本県における調査統計事業発展のため、一そこの御活躍と御協力ををいただくよう心からお願いして、新年のあいさつといたします。



就任のあいさつ

茨城県調査企画課長 平野 逸郎
茨城県統計協会副会長

新年おめでとうございます。

ここに輝しい昭和31年の新春を迎え、皆様の御慶福を心からお喜び申し上げます。

私はこのたび県の機構改革に伴う人事異動によつて、はからずも調査企画課長を拜命するとともに、茨城県統計協会会則の定めるところにより、本協会副会長に就任いたしましたことは誠に光榮に存じます。

もともと私は統計関係について全くの素人ですが、先輩各位のたゆまぬ努力と経験によつて築かれたところの教訓と実績を忠実に守り、皆様の御指導と御べんたつを得て、この重責を果して行きたいと思ひます。

近年ますます統計の重要性が強調され、調査統計事業は中央、地方を通じて急速に進展し、今や『統計のないところに政治はなく、統計のないところに人間生活はない』といつても過言ではない時代に到達しております。私たちは正しい調査を行うことによつて正しい統計を作り、合理性の高い政治の基礎を築かなければなりません。そのためには今後特に県の新機構の発足に即応し、極力調査統計事業の調整統合を図つて、事務の簡素化と能率化を促進するとともに、調査の結果を県の総合企画面に十充活用させ、統計をして真に県政の礎石たらしめたいと思ひます。他面調査統計思想の普及に努め、県民一人一人の生活の改善向上のために、大いに利用できる統計資料の整備を計りたいと思ひます。

ここに関係各位の御支援と御協力を心からお願いするとともに、皆様の御多幸をお祈りして就任のあいさつといたす次第でございます。



離任に際して

前総務部調査課長 柏原 誠
前茨城県統計協会副会長
茨城県水戸支庁鉾田支所長

明けましておめでとうございます。

ここに明るい希望に満ちた昭和31年の初春を迎え、皆様にはますます御健勝のことと思ひます。

昨年末の県における機構改革に伴う人事異動によつて、私ははからずも鉾田支所長へ転出し、調査課長及び茨城県統計協会副会長の職を離れることになりましたので、親しみ深い調査統計関係者の皆様に御あいさつを申し上げます。

顧みれば、昭和29年8月以来誠に短い期間ではありましたが、本県の調査統計事業推進のために、大過なく働くことができましたことは、一に皆様の絶大な御援助と御協力の賜であり、心から感謝の意を表する次第です。特に統計畑の素人である私としては、調査統計事業の勉強をつづけながら、調査統計制度の民主化と合理化に精魂を傾け、真実にして正確な統計資料の作成のために努力して参りましたが、その業半ばにしてこの職を去ることは誠に残念に思ひます。

今や本県の調査統計事業はますます拡充強化されて、全国でも有数の統計県にまで発展しましたことは周知のところであります。昨年10月に行われた国勢調査も皆様のたゆまぬ御研究と不眠不休の御努力によつて、他府県に比べ輝しい成果を取ることができたことは、誠に御同慶に堪えません。

今後は調査統計事業も、県における総合企画面と密接な関連性をもつて、ますます重要視されることと思ひますが、国や県、市町村の重要施策の樹立推進のため、大いに寄与されることを切望します。

終りに皆様の御活躍と御多幸をお祈りするとともに、今後ともなお一そうの御指導、御べんたつをお願いして私のあいさつといたします。

調査企画課誕生

課員79名の大世界となる

昨年末県においては大巾な機構改革が行われ、従前の調査課は総合開発課及び生活科学課、科学技術研究所と合体して、新たに知事直属の調査企画課として再発足することになった。従来調査課の業務は国の委託事業が多く、県自体における調査統計事務がややもすると置き去りにされる嫌があつたようである。しかし今後はこれらの調査結果を県の総合企画面へ大いに反映させるとともに、清新の氣風を注入し、真に県行政の礎としてますます当課の発展させなければならないと思う。

なおこのたび異動された方々の氏名は次のとおりである。

◎転出者氏名(カッコ内は前職名)

銚田支所長へ 柏原 誠(調査課長)
水戸支庁統計係長へ 中島 武夫(商工調査係長)
地方課へ 長島 鐘一
秘書公聴課へ 芳志戸敬子
出納局へ 貝沼 実

◎来任者氏名(カッコ内は前職名)

調査企画課長 平野 逸郎(土木部監理課長)
課長補佐兼企画第一係長 高橋 吉雄(総合開発課長補佐兼第一係長)
同 第二係長 中村 健雄(科学技術研究所総合開発推進班長補佐)
同 第三係長 中沢義三郎(科学技術研究所生活科学班長補佐)
同 生活科学係長 小室 勝一(開拓課長補佐兼管理係長)
商工調査係長 青木 正寿(漁政課長兼漁業調整係長)
調査企画課 小野瀬二郎 岡本 重徳 遠西 光正
粉川 力雄 安達 旭 根本 茂夫
田口 利夫 丹藤 一 川崎 和二
亀谷 一郎 田村 裕三 浅野 辰夫
川上 勝美 小山けい子 關部香代子
三村 恵六

◁ 初の支庁統計係長会議開かる ▷

県では去る1月10日に機構改革後初の支庁統計係長会議を開催して、調査統計業務の一般的運営方針の指示や

冬期農業基本調査、毎月勤労統計調査、商工動態調査などの事務打合せを行った。

〽 昭和30年冬期農業基本調査近づく 〽

先に調査日を延期して来た昭和30年冬期農業基本調査も、いよいよ来月1日を期して県下一斉に実施することになった。関係各位におかれては何かとお忙しい時節ではありますが、調査の趣旨を十分に承されて、これが調査目的を達成できるように特別の御協力を心から願っています。

◎調査目的

この調査は茨城県農業基本調査規則(昭和28年規則第58号)第2条の規定に基づき、冬期農業の実態を調査し行政施策の基礎資料を作成するため、市町村の協力のもとに実施する。

◎調査時期

昭和31年2月1日現在によつて行う。

◎調査事項

1. 世帯員(管理者)氏名
2. 農家人口(世帯員のうち出稼者、農業常雇、農業季節雇)
3. 経営耕地面積
4. 冬作物の作付面積
5. 購入肥料数量
6. 耕うん種類別
7. 冬作休耕地の理由別面積
8. 家畜家禽の飼養頭数
9. 家畜斃死頭数
10. サイロの設備数
11. 畜舎の設備数(牛、馬、豚)

新市町村の横顔

石岡市

1. 沿革 本市は水戸から常磐線で南へ約40分、ここから鹿島参宮鉄道で鹿島、行方の水郷地帯へ入る要門であり、本県中部における産業、交通上の中心地として最近大きく浮び上つてきた。ここには36代孝徳天皇の御代(約1,100年前)に常陸国の国府(政庁)のあつたところで、天平13年には国分寺が建立され、中世以降の天正18年佐竹氏の所領となるまで、地方政治の拠点となり、歴史上誠に由緒深い土地であります。なお高浜地区は昔水運の要地で、常に船の出入に大変賑つたそうです。

又ここには本県の生んだ市井の楽聖都々坊扇歌が、長い間住んだことがあり、今でもその墓が国分寺址の墓地内に残っています。扇歌はもとの久慈郡佐竹村に生れたが、その後江戸に出て三味線や世話を研究し、俗にいう都々逸を作り出し、一般庶民に大変もてはやされましたが、たまたま徳川幕府の忌にふれ江戸追放の身となつて、石岡へきたそうであります。ここにある惣社神社は、江戸時代におまる徳川支藩松平2万石の城址にあるが、これは中古時代の国司や武家、地方住民などから大変尊敬され、今でも毎年9月8,9,10日の3日間附近からの参拝客で物スゴイ人出を呼ぶ由。

戦時中はアルコール工場(現在は通産省所管)や滑空訓練所などがありましたが、去る28年11月16日に県下町村合併のトップを切つて、隣の高浜町と合体し、翌29年2月11日に市制を施行して大いに世人の注目を浴びました。更に同年12月1日には隣の三村、関川村を編入して、今や総面積61.76平方軒、世帯数6,933、人口総数55,690名(男17,155、女18,535)を擁する平和な田園都市として、将来の発展を大いに期待されています(昭和30年10月1日現在)。

2. 産業 先づ農家戸数2,735、農家人口(常住世帯員)総数16,365、男8,070、女8,295で、耕地面積は水田1,216町、畑1,438町、樹園地274町(以上昭和30年8月1日夏期基本調査)、牛1,568頭、馬144頭、豚962頭、にわとり15,467羽、兎1,123頭、山羊213頭、めん羊26頭、あひる112羽(以上昭和29年12月末冬期基本調査)となつています。特に乳牛は数百頭を有し、今や酪農経営を主体とした農村改良建設計画が着々と進んでいるが、これは合併後における農村振興政策として適切なものであるといえましょう。又特産茨城くりは約134町の集団面積と散在1,711本を有し、毎年約43,000メの実収をあげている。

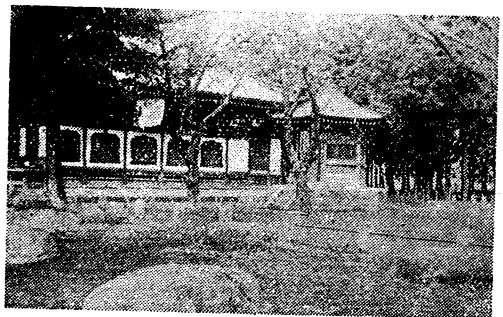
更に霞ヶ浦を利用する内水面漁業者は団体17、個人31名で、おもにこい、ふな、わかさぎ、うなぎなどの漁獲

があるが、ふな釣りの天狗連が遠く東京方面からも押寄せてくる由。

次に商業面を見ると、商店総数711、うち法人の商店及び個人商店で常用労働者を有する事業所が182、事業主、従業者1,055名、販売総額年間約20億7,000万円の多額にのぼる。更に個人商店で常用労働者を有しない事業所は529で、8月中だけの販売総額は約3,600万円をあげています。(昭和29年9月1日商業調査)

又工業面を見ると事業所総数102、従業者数1,550名、製造出荷額は年間約1億1,300万円の多きにのぼり、中でも食料品工業においては事業所36、製造出荷額約7億8,000万円と全体の約6割を占めています。特に清酒、噌、醤油、乳製品などが多く、鳩時計や桐材、桐製品、コンクリート製品などとともに、本市の代表的産物となつています。中でも鳩時計や乳製品はくりとともに遠く海外にまで輸出されて、大いに好評を博し、将来を大いに嘱望されております。なお石岡市には、この外にも従業者3人以下の小規模事業所が105もあり、従業者総数234、年間の製造出荷額6,800万円をあげています。

3. 教育文化 ここには小学校9、教員数129、生徒数4,955名(男2,512、女2,443)、中学校5、教員数75、生徒数2,547名(男1,270、女1,277)、高等学校2、教員数68、生徒数1,927名(男1,006、女921)、の学校があります(昭和30年5月1日学校基本調査)。更に幼稚園2、各種学校7があるけれども、ここにある高等理容学校は県下唯一のものであります。又石岡二岡の女子体操は全国でも1、2位を争う高水準に達している。ここには公民館が4つあつて、青年、婦人団体が主体になり、新生活運動を展開している。たとえば昨年10月以来公民館結婚を提唱して、旧来の慣習の中に大きな波紋を投げ、最近新しい感覚による冠婚葬祭が多くなつてきたそうである。



(国分寺址にある扇歌堂)

4. 財政

昭和30年度歳入歳出予算(当初)

(単位千円)

歳入	税収入	地方交付税	分担金及び負担金	使用料及び手数料	国庫支出金	県支出金	寄附金	繰越金	市債	その他	合計				
		83,724	14,000	960	1,151	21,604	1,872	2,991	631	5,525	604	132,062			
歳出	議会費	役所費	警察費	消防費	土木費	教育費	社会及び労働施設費	保健衛生費	産業経済費	財産費	統計調査費	選挙費	公債費	諸支出金	合計
		2,235	34,022	6,676	13,297	22,937	18,203	3,027	6,595	1,021	231	590	2,182	21,046	132,062

毎月勤労統計調査結果速報

(昭和30年10月分)

労働省大臣官房労働統計調査部

茨 城 県

―― 結 果 の 概 況 ――

1. 給与は引続き減少

10月分調査産業総数の常用労働者1人当り平均現金給与額は14,651円で、6月の夏期手当支給を頂点としてその後各月とも減少を続けて来たが、本月もその例にもれず、更に582円の減少を示した。

この減少はもっぱら特別に支給された給与の人員構成の変化と生産減、期末手当打ち切りによるものであつて

きまつて支給される給与は大した変化は見られなかつた。このなかで僅かではあるが、給与の増加した産業は磁業、紡績業、商業、医療保健業などで、これは売上、生産の上昇によるものである。その他の産業はすべて減少したが、特に金融業は9月に期末手当の支給があつたので、本月は11,918円の大巾な減少となつた。これを表に示すと次のとおりである。

区 分	現金給与総額	対前月差
総 数	単位円 14,651	単位円 - 582
D 鉱 業	13,885	+ 185
F 製 造 業	13,825	- 602
20 食 料 品 製 造 業	11,586	- 129
22 紡 績 業	6,484	+ 37
35 機 械 製 造 業	12,648	- 326
36 電 気 機 械 器 具 製 造 業	16,870	- 400
G 卸 売 及 び 小 売 業	11,882	+ 277
H 金 融 及 び 保 険 業	21,352	-11,918
T 運 輸 通 信 及 び そ の 他 の 公 益 事 業	16,565	- 141
E 建 設 業	9,586	- 314
K88 医 療 保 健 業	13,572	+ 61

2. 卸売小売業の労働時間など需要期のため急増

10月分労働者1人当り平均月間総実労働時間数は産業総数で、197.2時間と前月より2.0時間の減少である。前月まで増加し続けて来たが、本月は休日も平日より多く一服というところである。

しかしながら秋の需要期をむかえた卸売小売業は、労働時間で4.8時間の増加、臨時労働者は延人員16,836人と前月に比べ、8倍の激増となつたことは大いに注自すべきことである。

第1表 産業、常用労働者の種類及び性別1人平均月間現金給与額並びに産業別臨時及び日雇労働者の1人1日平均現金給与額
(規模30人以上) (単位円)

産 業 名	現金給与総額			きまつて支給する給与			特別に支払われ た 給 与			臨時及び日雇 労働者の1人 1日平均現金 給与額
	総 数	男 子	女 子	総 数	男 子	女 子	総数	男子	女子	
全 常 用 勞 働 者										
總 数	14,651	16,526	7,088	14,566	16,432	7,041	85	94	47	258
D 鉱 業	13,885	14,716	5,586	13,777	14,599	5,573	108	117	13	241
F 製 造 業	13,825	16,438	6,140	13,778	16,383	6,116	47	55	24	272
20 食 料 品 製 造 業	11,586	13,874	5,215	11,340	13,587	5,083	246	287	132	216
22 紡 織 業	6,484	11,801	5,039	6,484	11,801	5,039	0	0	0	263
35 機 械 製 造 業	12,648	13,546	6,741	12,490	13,383	6,622	158	163	119	—
36 電 氣 機 械 器 具 製 造 業	16,870	18,667	7,420	16,870	18,667	7,420	0	0	0	356
G 卸 売 及 び 小 売 業	11,882	13,359	6,708	11,850	13,336	6,644	32	23	64	234
H 金 融 及 び 保 險 業	21,352	26,954	11,200	20,341	25,592	10,826	1,011	1,362	374	0
J 運 輸 通 信 業 及 び そ の 他 公 益 事 業	16,565	17,450	10,232	16,557	17,442	10,232	8	8	0	273
E 建 設 業	9,586	10,409	4,995	9,586	10,409	4,995	0	0	0	401
K88 医 療 保 健 業	13,572	20,928	9,026	13,572	20,928	9,026	0	0	0	179
生 産 勞 働 者										
D 鉱 業	13,650	14,358	5,087	13,622	14,329	5,077	28	29	10	—
F 製 造 業	11,585	13,920	5,646	11,547	13,871	5,637	38	49	9	—
20 食 料 品 製 造 業	10,222	12,269	4,039	10,008	11,988	4,996	214	281	43	—
22 紡 織 業	5,559	9,155	4,948	5,559	9,155	4,948	0	0	0	—
35 機 械 製 造 業	11,649	12,241	6,749	11,631	12,223	6,749	18	18	0	—
36 電 氣 機 械 器 具 製 造 業	14,344	15,771	6,846	14,344	15,771	6,846	0	0	0	—
E 建 設 業	7,126	7,755	3,889	7,126	7,755	3,889	0	0	0	—
管 理 事 務 及 び 技 術 勞 働 者										
D 鉱 業	15,286	17,103	6,862	14,701	16,396	6,843	585	707	19	—
F 製 造 業	18,912	21,506	7,815	18,844	21,440	7,740	68	66	75	—
20 食 料 品 製 造 業	15,058	17,608	5,800	14,731	17,308	5,372	327	300	428	—
22 紡 織 業	12,748	15,630	6,661	12,748	15,630	6,661	0	0	0	—
35 機 械 製 造 業	15,175	17,197	6,560	14,664	16,632	6,441	511	565	119	—
36 電 氣 機 械 器 具 製 造 業	20,961	23,355	8,356	20,961	23,355	8,356	0	0	0	—
E 建 設 業	13,362	14,353	7,038	13,362	14,353	7,038	0	0	0	—

第2表 産業、常用労働者の種類及び性別1人平均月間実労働時間数及び出勤日数（規模30人以上）

産 業 名	総実労働時間数			所定内労働時間数			所定外実労働時間数			出 勤 日 数		
	総 数	男子	女子	総数	男子	女子	総数	男子	女子	総数	男子	女子
全 常 用 勞 働 者												
總 数	197.2	200.4	185.8	180.2	180.3	179.8	17.0	20.1	6.0	24.1	24.2	23.8
D 鉱 業	195.6	197.0	181.5	175.6	175.7	174.5	20.0	21.3	7.0	24.1	24.1	24.2
F 製 造 業	201.1	206.2	186.1	180.8	181.1	179.9	20.3	25.1	6.2	23.9	24.1	23.4
20 食 料 品 製 造 業	201.9	208.0	184.7	181.7	183.3	177.3	20.2	24.7	7.4	24.1	24.6	22.9
22 紡 織 業	194.2	221.7	186.7	188.1	197.4	185.6	6.1	24.3	1.1	23.6	24.3	23.3
35 機 械 製 造 業	214.4	215.9	205.7	192.4	191.9	196.2	22.0	24.0	9.5	24.5	24.5	24.7
36 電 氣 機 械 器 具 製 造 業	202.5	205.6	186.5	179.2	179.8	176.2	23.3	25.8	10.3	24.0	24.1	23.7
G 卸 売 及 び 小 売 業	192.3	189.9	200.6	181.8	177.0	198.8	10.5	12.9	1.8	25.6	25.7	25.4
H 金 融 及 び 保 險 業	180.5	182.6	176.9	169.3	170.5	167.3	11.2	12.1	9.6	24.5	24.6	24.4
J 運 輸 通 信 及 び そ の 他 公 益 事 業	194.2	195.7	183.7	183.7	184.4	178.5	10.5	11.3	5.2	24.1	24.1	24.2
E 建 設 業	180.3	181.3	174.4	172.3	173.0	168.2	8.0	8.3	6.2	22.5	22.6	22.0
K88 医 療 保 健 業	203.0	206.0	201.1	189.9	189.8	190.0	13.1	16.2	11.1	24.3	25.0	24.0
生 産 勞 働 者												
D 鉱 業	195.0	196.2	180.4	174.6	174.7	173.3	20.4	21.5	7.1	23.8	23.9	23.7
F 製 造 業	201.8	208.1	185.5	180.2	180.3	179.8	21.6	27.8	5.7	23.8	24.0	23.2
20 食 料 品 製 造 業	203.2	210.9	183.8	180.1	181.4	176.9	23.1	29.5	6.9	24.1	24.6	22.8
22 紡 織 業	192.0	225.7	186.3	186.2	192.1	185.2	5.8	33.6	1.1	23.3	23.3	23.3
35 機 械 製 造 業	218.0	218.5	213.7	193.4	192.6	199.9	24.6	25.9	13.8	24.9	24.9	25.1
36 電 氣 機 械 器 具 製 造 業	204.3	207.4	188.0	178.9	179.3	176.6	25.4	28.1	11.4	24.0	24.1	23.7
E 建 設 業	159.5	160.4	155.2	154.9	155.3	153.2	4.6	5.1	2.0	20.3	20.3	20.2
管 理 事 務 及 び 技 術 勞 働 者												
D 鉱 業	198.5	201.6	184.1	181.1	181.9	177.5	17.4	19.7	6.6	25.7	25.8	25.6
F 製 造 業	199.5	202.2	188.1	182.2	182.6	180.5	17.3	19.6	7.6	24.2	24.3	23.9
20 食 料 品 製 造 業	198.3	201.2	187.8	185.6	187.6	178.6	12.7	13.6	9.2	24.4	24.6	23.5
22 紡 織 業	208.5	216.0	192.6	201.0	205.2	192.1	7.5	10.8	0.5	25.2	25.8	24.0
35 機 械 製 造 業	205.6	208.3	194.2	189.9	189.7	192.9	15.7	18.6	3.3	23.4	23.3	24.1
36 電 氣 機 械 器 具 製 造 業	199.5	202.5	183.9	179.7	180.5	175.5	19.8	22.0	8.4	24.1	24.2	23.6
E 建 設 業	212.0	212.4	209.9	198.9	199.4	195.9	13.1	13.0	14.0	25.9	26.0	25.4

(第3表) 産業、常用労働者の種類及び性別月末及び増加減少推計労働者数並びに産業別臨時及び日雇労働者の月間推計延人員(規模30人以上)

産 業 名	前月末労働者数			本月中の増加			本月中の減少			本月末労働者数			臨時及び日雇労働者の月間推計延人員
	総数	男子	女子	総数	男子	女子	総数	男子	女子	総数	男子	女子	
全 用 用 労 働 者													
總 数	63,570	50,904	12,666	969	715	254	990	666	324	63,549	50,953	12,596	68,898
D 鉱 業	10,269	9,330	939	233	215	18	128	109	19	10,374	9,436	938	11,574
F 製 造 業	31,958	23,819	8,139	597	415	182	766	484	282	31,789	23,750	8,039	23,893
20 食料品製造業	2,966	2,185	781	74	41	33	91	59	32	2,949	2,167	782	11,240
22 紡 績 業	3,048	652	2,396	77	14	63	106	21	85	3,019	645	2,374	590
35 機 械 製 造 業	2,028	1,761	267	25	20	5	18	16	2	2,035	1,765	270	0
36 電氣機械器具製造業	15,162	12,732	2,430	312	260	52	249	191	58	15,225	12,801	2,424	6,254
G 卸 売 及 び 小 売 業	3,923	3,092	873	70	35	35	25	14	11	4,008	3,111	897	16,336
H 金 融 業	2,521	1,626	895	0	0	0	20	16	4	2,501	1,610	891	0
E 建 設 業	14,859	13,039	1,820	69	50	19	51	43	8	14,877	13,046	1,831	17,095
K88 医 療 及 び 保 健 業	5,496	4,649	847	346	339	7	365	332	33	5,477	4,656	821	44,853
J 運 輸 通 信 及 び その他の公益事業)	2,416	921	1,495	23	10	13	27	8	19	2,412	923	1,489	224
生 産 労 働 者													
D 鉱 業	8,786	8,109	677	216	205	11	115	100	15	8,887	8,214	673	—
F 製 造 業	22,214	15,920	6,294	460	319	141	631	387	244	22,043	15,852	6,191	—
20 食料品製造業	2,128	1,531	597	50	28	22	59	46	13	2,119	1,513	606	—
22 紡 績 業	2,649	379	2,270	76	14	62	88	5	83	2,637	388	2,249	—
35 機 械 製 造 業	1,452	1,297	155	16	11	5	7	7	0	1,461	1,301	160	—
36 電氣機械器具製造業	9,371	7,868	1,503	242	201	41	196	152	44	9,417	7,917	1,500	—
E 建 設 業	3,336	2,781	555	332	327	5	360	327	33	3,308	2,781	527	—
管 理 事 務 及 び 技 術 労 働 者													
D 鉱 業	1,483	1,221	262	17	10	7	13	9	4	1,487	1,222	265	—
F 製 造 業	9,744	7,899	1,845	137	96	41	135	97	38	9,746	7,898	1,845	—
20 食料品製造業	838	654	184	24	13	11	32	13	19	830	654	176	—
22 紡 績 業	399	273	126	1	0	1	18	16	2	382	257	125	—
35 機 械 製 造 業	576	464	112	9	9	0	11	9	2	574	464	110	—
36 電氣機械器具製造業	5,791	4,864	927	70	59	11	53	39	14	5,808	4,884	924	—
E 建 設 業	2,160	1,868	292	14	12	2	5	5	0	2,169	1,875	294	—

昭和 30 年 度 学 校

公 立 高 等 学 校

生徒数	本											
	1 学 年		2 学 年		3 学 年		4 学 年 以 上					
	男	女	男	女	男	女	男	女				
通常の課程	7,352	6,168	6,681	5,711	6,664	5,522	—	—				
定時制の課程	1,345	286	1,067	369	1,268	356	1,094	297				
外国人(通常 (再掲)定時制)	8 2	3 —	7 1	2 1	5 2	1 —	— —	— —				
課程男女別	普 通		農 業		水 産		工 業					
本科生徒数	男	女	男	女	男	女	男	女				
通常の課程	11,251	11,908	4,934	247	290	—	1,625	—				
定時制の課程	3,474	1,250	857	21	20	—	48	—				
小課程別	農 業 に 関 す る 課 程											
本科生徒数	農 業	園 芸	畜 産	蚕 業	農産加工	林 業	農業土木	繊維農業	計			
通常の課程	3,682	210	220	323	299	159	146	142	5,181			
定時制の課程	846	—	—	32	—	—	—	—	878			
(続)	(続) 工 業 に 関 す る											
小課程別本科生徒数	土 木	木材工芸	金属工芸	工業化学	色 染	紡 織	造 船	窯 業	採 鋇			
通常の課程	—	—	—	238	—	—	—	—	—			
定時制の課程	—	—	—	—	—	—	—	—	—			
教 員 数	校 長		教 諭		助 教 諭							
	男	女	男	女	男	女						
本 務 者 (通常 (再掲)定時制)	51 —	— —	1,224 208	212 30	3 2	— —	— —	— —	2 —			
(再掲)外国人(通常 (再掲)定時制)	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —			
(再掲)休職者(通常 (再掲)定時制)	— —	— —	22 1	3 —	— —	— —	— —	— —	— —			
兼 務 者 (通常 (再掲)定時制)	— —	— —	1 —	1 —	— —	— —	— —	— —	— —			
職 員 数	事務職員		技術職員		実習助手		そ の 他		合 計			
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計	
本 務 者	通常	124	40	6	—	81	3	131	70	342	113	455
	定時制	3	1	—	—	4	—	4	12	11	13	24

基本調査結果

(昭和30年5月1日現在) (その2)

人口調査係

科			専攻科		別科		合計			
合	計		男	女	男	女	男	女	計	
20,697	17,401	38,098	16	—	—	—	20,713	17,401	38,114	
4,774	1,308	6,082	—	—	25	99	4,799	1,407	6,206	
20 5	6 1	26 6	— —	— —	— —	— —	20 5	6 1	26 6	
商 業		家 庭 (技芸)	商 船		そ の 他 ()		合 計			
男	女	男	女	男	男	女	男	女	計	
2,596	667	—	4,469	—	1	110	20,697	17,401	38,098	
375	34	—	3	—	—	—	4,774	1,308	6,082	
水産に関する課程					工業に関する課程					
漁業	水産製造	水産増殖	機 関	無 線	計	機械工作	自動車	電力	電気通信	建 築
97	109	46	16	22	290	615	—	397	139	—
—	—	—	—	20	20	48	—	—	—	—
課 程			家 庭 (技芸) に 関 する 課 程				商業に関する課程			
建 設	採鉱冶金	計	家 庭	食 物	被 服	保 育	計	機 関	航 海	
121	115	1,625	4,095	—	374	—	4,469	—	—	—
—	—	48	3	—	—	—	3	—	—	—
養護教諭		養護助教諭	講 師		合 計					
女	女	男	女	男	女	計				
16	10	40	4	1,318	244	1,562				
4	—	4	—	214	34	248				
—	—	—	—	—	—	—				
—	—	1	—	23	3	26				
—	—	—	—	1	—	1				
—	—	38	7	34	8	42				
—	—	6	6	6	6	12				
学 校 医	115	再 掲	教 員 組 合 者		3	本 休 職 再 務 理 教 由 掲 員 別	公 務 上 の 病		—	
学 校 歯 科 医	61		事 務 専 従 者 等		1		公 務 傷 疾 病		—	
学 校 薬 剤 師	—		教 育 委 員 会 者		36		結 核		23	
			職 業 指 導 主 事		3		そ の 他		4	
			司 書 教 諭		3	計		27		

私立高等学校

生徒数	本										
	1 学 年		2 学 年		3 学 年		4 学 年 以 上				
	男	女	男	女	男	女	男	女			
通常の課程	500	1,433	412	1,012	442	1,421	—	—			
定時制の課程	—	—	—	—	—	—	—	—			
外国人(通常)	—	—	—	—	—	1	—	—			
(再掲) 定時制	—	—	—	—	—	—	—	—			
課程男女別	普 通		農 業		水 産		工 業				
本科生徒数	男	女	男	女	男	女	男	女			
通常の課程	1,345	1,810	9	—	—	—	—	—			
定時制の課程	—	—	—	—	—	—	—	—			
小課程別	農 業 に 関 す る 課 程										
本科生徒数	農 業	園 芸	畜 産	蚕 業	農産加工	林 業	農業土木	計			
通常の課程	9	—	—	—	—	—	—	9			
定時制の課程	—	—	—	—	—	—	—	—			
(続)	(続) 工 業 に 関 す る 課										
小課程別本科生徒数	土 木	木材工芸	金属工芸	工業化学	色 染	紡 織	造 船	窯 業			
通常の課程	—	—	—	—	—	—	—	—			
定時制の課程	—	—	—	—	—	—	—	—			
教 員 数	校 長		教 諭		助 教 諭						
	男	女	男	女	男	女					
本 務 者 {通常	9	—	111	41	3	7					
(再掲) 外国人 {通常	—	—	2	—	—	—					
(再掲) 休職者 {通常	—	—	—	1	—	—					
兼 務 者 {通常	—	—	—	—	—	—					
	—	—	—	—	—	—					
職 員 数	事務職員		技術職員		実習助手		そ の 他		合 計		
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計
本 務 者 {通常	13	20	—	—	1	5	4	2	18	27	45
(再掲) 定時制	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

科			専攻科		別科		合計		
合	計		男	女	男	女	男	女	計
1,354	3,866	5,220	—	—	—	91	1,354	3,957	5,311
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
—	1	1	—	—	—	—	—	1	1
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
商業 家庭(技芸)			商船		その他()		合計		
男	女	計	男	女	男	女	男	女	計
—	1,387	—	669	—	—	—	1,354	3,866	5,220
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
水産に関する課程				工業に関する課程					
漁業	水産製造	水産増殖	計	機械工作	自動車	電力	電気通信	建築	
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
程		家庭(技芸)に関する課程					商船に関する課程		
採	計	家庭	食物	被服	保育	計	機関	航海	
—	—	611	20	38	—	669	—	—	—
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
養護教諭		養護助教諭		講師		合計			
女	女	男	女	男	女	計			
1	1	20	6	143	56	199			
—	—	—	—	—	—	—			
—	—	2	—	4	—	4			
—	—	—	—	—	—	—			
—	—	—	—	—	1	1			
—	—	28	2	28	2	30			
—	—	—	—	—	—	—			
学校医	12	再掲	教員組合者	—	本休(再掲) 務理員別	公務上の病	—		
学校歯科医	7		教務専従者	—		公務上の病	—		
学校薬剤師	—		教育委員会等	—		公務上の病	—		
			専任者	—		公務上の病	—		
			職業指導主事	—		その他	1		
			司書教諭	—		計	1		

公 立 幼 稚 園

幼 児 数 (4月1日現在の) 満年齢による	4才未満		4才		5才		合 計						
	男	女	男	女	男	女	男	女	計				
在 園 者	43	40	430	328	2,317	2,168	2,790	2,536	5,326				
再 掲 {外国人}	—	—	3	—	12	9	15	9	24				
教 員 数	園 長		教 諭		助 教 諭		養護 教諭	養護 助教諭	講 師	合 計			
	男	女	男	女	男	女	女	女	男	女	男	女	計
本 務 者	17	6	1	72	1	95	—	1	1	5	20	179	199
再 掲 {外国人 休職者}	2	2	—	—	—	—	—	—	—	—	2	2	4
兼 務 者	24	1	12	3	2	—	—	—	4	—	42	4	46
職 員 数	事務職員		そ の 他		合 計			学 校 医		48			
	男	女	男	女	男	女	計	学 校 歯 科 医		35			
本 務 者	4	10	3	28	7	38	45	学 校 薬 剤 師		1			

各 種 学 校

教 員 数	男	女	計	職 員 数	男	女	計
本 務 者	123	469	592	本 務 者	60	56	116
兼 務 者	228	143	371				
課 程 別 生 徒 数	生			徒			
	昼 間 部			夜 間 部			
	男	女	計	男	女	計	
普 通 課 程	—	—	—	23	—	23	
農 業 課 程	225	55	280	—	—	—	
工 業 課 程	379	—	379	—	—	—	
簿 記 珠 算 課 程	165	45	210	125	124	249	
和 洋 裁 課 程	—	6,948	6,948	—	1,131	1,131	
栄 養 課 程	—	100	100	—	24	24	
家 庭 課 程	—	58	58	—	197	197	
助産婦・看護婦課程	—	331	331	—	—	—	
理 容 課 程	111	338	449	—	—	—	
タイピスト課程	—	4	4	—	—	—	
編 物 課 程	—	368	368	—	59	59	
計	880	8,247	9,127	148	1,535	1,683	

昭和30年度学校衛生統計調査の結果概要

人口調査係

学校衛生統計調査は学校衛生行政の基礎資料を得ることを目的とするものであつて、昭和23年統計法による指定統計第15号として毎年実施されております。本統計は学生生徒、児童および幼児の体位の傾向を示す貴重な資料として、各方面においてその利用度が漸次高まってきました。なおこの調査は文部省における最も大規模な抽出調査であり、学生、生徒、児童、幼児の体位向上と保健

衛生の重要性にかんがみ、その正確性に負うところが非常に大きいのであります。本県においても幼稚園48校、小学校54校、中学校70校、高校33校が抽出調査され、今回その集計が完了したので公表するとともに、本調査実施に御協力をいただいた関係各位に対し、心から感謝する次第であります。

【男】

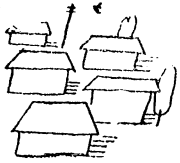
生徒児童幼児の発育の平均値

昭和25年平均値は()で示す

	身 長	体 重	胸 囲	座 高
	cm	kg	cm	cm
幼	(92.9) 86.2	(14.6) 15.0	(52.8) 52.5	(55.2) 55.3
	(99.9) 102.0	(15.8) 16.2	(53.8) 53.9	(57.7) 58.8
	(102.5) 106.7	(17.5) 17.6	(55.3) 55.2	(60.6) 60.8
小	(109.4) 113.1	(19.1) 18.9	(55.9) 55.9	(62.4) 62.9
	(114.0) 115.2	(20.7) 20.6	(58.2) 58.3	(64.6) 65.3
	(119.8) 120.0	(22.7) 22.8	(59.9) 60.0	(66.8) 67.4
	(123.3) 124.7	(24.7) 25.0	(61.7) 61.7	(68.8) 69.5
	(127.2) 129.5	(26.7) 27.4	(63.3) 63.8	(70.6) 71.4
	(131.1) 133.7	(29.0) 29.7	(65.9) 65.5	(72.4) 73.1
中	(137.2) 138.9	(32.2) 33.8	(67.0) 68.3	(74.3) 75.6
	(141.7) 145.5	(35.6) 38.1	(69.5) 71.1	(76.5) 77.2
	(147.9) 152.0	(40.3) 43.4	(72.9) 74.9	(79.9) 82.1
高	(156.3) 158.3	(47.9) 48.5	(78.0) 78.3	(84.0) 86.0
	(159.9) 161.5	(50.7) 51.7	(79.4) 81.0	(85.7) 87.8
	(161.9) 163.0	(53.1) 54.3	(81.5) 82.0	(88.5) 89.0

【女】

	身 長	体 重	胸 囲	座 高
	cm	kg	cm	cm
幼	(93.4) 94.4	(13.8) 14.3	(51.3) 51.1	(55.3) 54.8
	(98.4) 100.4	(15.3) 15.5	(52.5) 52.5	(56.9) 58.1
	(104.0) 105.5	(17.4) 17.0	(54.0) 53.8	(60.1) 60.2
小	(108.5) 109.5	(18.1) 18.3	(54.7) 54.3	(62.1) 62.6
	(113.1) 114.4	(20.0) 20.0	(56.4) 56.4	(64.2) 64.9
	(118.0) 119.3	(22.0) 22.2	(58.1) 58.2	(66.5) 67.0
	(122.6) 124.4	(24.1) 24.6	(59.7) 60.1	(68.1) 69.3
	(127.0) 130.0	(26.2) 27.4	(61.6) 62.3	(70.5) 71.6
	(132.1) 134.7	(29.1) 30.5	(63.9) 64.9	(72.8) 74.1
中	(138.3) 140.7	(33.3) 35.3	(66.9) 68.9	(75.2) 77.2
	(143.1) 145.7	(38.1) 39.5	(70.4) 72.5	(78.3) 79.8
	(147.0) 148.9	(41.2) 43.7	(74.0) 75.7	(80.6) 81.9
高	(150.9) 151.7	(46.2) 46.7	(76.9) 77.8	(83.1) 83.9
	(151.7) 152.5	(47.7) 48.6	(78.7) 79.7	(83.7) 84.4
	(153.9) 153.2	(49.3) 49.6	(79.9) 80.4	(84.3) 84.6



日本における統計の発展について（その2）

統計審議会委員 森 数 樹

こういう例は地方にもありまして、当時の福島県の矢島統計課長は、知事から資料の焼却を命令されましたが非常になやんだ。貴重な資料を灰にするにしのびないわけです。そこで色々考えた末、棺桶を2ヶ用意しまして、課員が死んだというふれこみで、その中に貴重な資料を入れ堂々と運び出して自分の墓地に埋めました。そのために戦後の福島県の復興は非常に早かったのであります。この功績によって矢島氏は第1回の大内賞にえらばれております。矢島氏は棺桶2ヶの資料をたすけて賞をいただいた。私も52万冊の資料をたすけましたが、未だ大内賞はもらえません。（笑声）

さて、それから1ヶ月程してムア中佐から電話がかかって来た。単にすぐこいというのです。私は何回かアメリカにも行つておるし、いくらか英語も話せるというので私が選ばれて軍に行つてみておどろきました。占領軍の中に統計局という部局ができておるのであります。これは誠に重大なことであります。占領早々にちやんとした部局ができておつたということは、いろいろ考えさせられるものがあります。そこで局長のロツスという人とムア中佐からこういうことをいわれた。「提出された資料を調べたところ、日本はいかに無理な戦争をしていたかがよく分つた。そこで7千万人の露命をいかにして、つないでゆくかが最も急を要し、かつ重大な政策である。正確な人口は何人か、米は一体どれだけとれるか、大人、子供平均1年に米をいくら消費するか、以上の事項を早急に調査して貰いたい。」その時提出した年間の収穫量は4,200万石という数字です。

ところが年末になつて又呼び出されました。「この間の統計について、各府県の軍政部からしきりに問い合わせが来る。日本ではどこでもにぎやかなところにはマーケットがあり、ヤミ市がある。そこでは金さえあれば米が買える。すこし位のヤミ米は仕方がないが全国的にこうでは、先日の統計が不正確なのではないか」というわけです。私のほうは米の専門家ではないからというので、農林省の役人に来てもらいました。何回か呼び出されているうちに、遂に20年の12月21日になつて、ごまかしきれずに本当のこと話しをしました。大変におこられたものです。「統計をごまかすなどということは、我々には考えられない。一々本人に聞いて、本人の為の政治をするのが統計ではないか。それをいつわりの資料を出すなどもつての外である」こんなことではいかんというので米

国の統計の専門家の指導を受けることになりました。正月早々の21年1月4日に、三たび軍に呼ばれて、ロイナー博士、エルニックスという米国の専門家に引き合わされました。占領期間の続くかぎり国勢調査をやれ、そのための費用はいくらでも大蔵省から獲得してやるというわけです。そこで21年、22年、23年、24年はやりませんでした。25年と4年続けて皆様のお世話になり調査をしたことは皆さん御承知のとおりであります。

ところがこの国勢調査の結果が発表禁止になつてしまいました。どうしたことかと思つていると、その後になつて調査人口は過少である。この数字に50万人を加えたものが本だからこれを発表せよという。仕方がないので面目を失つて総人口に50万人のつけて発表しました。さて困つたのが印刷発表のときです。どこの町村にのせてよいのか分らない（笑声）。そこで町村不明人口50万人という発表になつてしまつた（笑声）。この事件が我が国の統計史上ぬぐうことができない汚点をのこしたものであります。

昭和23年にマーカッツ少将が、一方では首相をよんで国勢調査を命じ、又農相に命じて米の配給通帳のあたまくづを知らせよという。それぞれ報告を出したところが早速7人の政府の高官—私もその中の1人でした—が呼びつけられた。そして、首相と農相の調査の結果101万人ちがつているがどちらが正しいと思うかという質問です。さあ高官連も困つてしまつた。そこで調査の方法が異なるのだから7千万人の人口で、101万人位の差ができるのはやむを得ないだろうと答えた。向うの質問がどちらが正しいと思うかというのに、これでは答になりません。果してマーカッツ少将の顔にはムクムクと筋肉がもりあがつて来ました。「私は言いわけを聞いているのではない。統計とは使うためのものだ。ただとつておくものではない。使うならば正確なものが必要である。もし101万人少い方が正しいとするならば、1人の米の消費量年間7斗として70万石の米が節約できるのだ。70万石の米を運ぶ船で、日本に必要な鉄とか羊毛を運ぶことができればどれだけ日本の復興が早められるか。もう一度いくら金がかかってもよいから本年中にやれ」そういつてさつさと自分の部屋に帰つてしまつた。そこで始めて統計の重要性が政府に認識され、その後殆どの省に統計局ができ、それを統括するために統計委員会が設置されました。この時の101万人の人口を当時の新聞

ほうまい表現をしております。幽霊人口というのがそれです。

以上私の体験した事例を申し上げたゆえんは、統計というものは使うためのもので、本当に町村のため国のための政治をおもう理事者ならば、どうしても統計に重点をおかなければならないのだということであります。ながめるものではなく使う統計である。おいておくのではなくて使う統計です。台所用具とおなじ事で、ただおいておくことだけではどうにもならない。これを使わなければ役に立たない。使うためには正確でなければならぬということ。それから又いかに正しくとも早くなければなりません。5年前の人口を今発表しても仕方がありません。そこで統計局におきましても、昭和25年以来各種の近代的な統計機械を購入いたしまして、正確かつ迅速な統計計算に努力しているわけであります。

現在の町村の状態を見ますに、町村の理事者が今のような考え方でおるのは、甚だ危険なことであるといわなければなりません。ドイツにおきましては、すべての費用の3割以上を統計的費用に使っております。西ドイツの回復の早かつたのは国民性にもよるのでしょうが、その統計的な優秀さがあつたつて、大いに力があつたのを考えますと、いかに統計ということが大切なものかよく分るのでございます。現在世界で統計の発達している国を申しますと第1位がソ連、第2位が米国であります。ソ連では統計局のことを経済計算局といいます。そこですべての行政を統計的にしらべ閣議に提出する。若しその数字に間違いでもあれば、その係の者はすぐ失脚させられてまいります。正しい数字を提出すればその人はほとんど出世をするということになっています。すべて統計にもとづいて仕事をします。これを「バランスシートをつくる統計」といつております。現在この2大国家が世界をリードしているのは決して故なきではありません。統計の重要性というものを、特に県、町村に深くしんとさせなければ、いくら中央でばかりおこなつても効果はうすいのであります。本当の意味における自治行政というものは、非常にむづかしいものであります。このためにも統計の果す役割は、誠に重大といわなければなりません。

さて、それでは統計というものは、国際的には一体どういう役割を果しているかということについて申し上げます。第一次世界大戦後にできました国際連盟、その中に軍備縮小委員会と経済委員会というものがありました。経済委員会のほうは非常に大きな仕事をしましたが、軍備縮小委員会のほうは申々まとまりません。各国から集まつた軍人等はお互いに相手ばかり攻撃している。さつぱりまとまりません。そこでいよいよ仕方がなくなつて、統計にもとづいてまとめようというわけです。そこで日

本にも国富統計を送るようにといつてきました。政府から私のところに「国富統計」というものがあるかという問い合わせです。ないというと3ヶ月の間に作つてくれという。120名の職員を使つてこれを作り上げました。すると、当時の大蔵大臣であつた高橋是清氏が、私を呼びまして「こんな貧弱な国富資料では軍部大臣が承知せず、閣議を通過しそうもない。少し割増しをしてくれ」というのです。そこで私は、ここで一つ統計教育をしてやろうと考えまして「統計というものは社会の真相を表に現わしたもので、何人といえどもこれを自由にすることはできないものだ」といつて帰りました。そうしているうちに今度は経済委員会のほうから、国際連盟の経費は国富統計によつて割り当てることになつたから、経済委員会にも国富資料を送るようにといつてきました。私は早速これを取りあげまして、大蔵大臣に「統計というものはある場合は不利にもなるし、ある場合は有利にもなる。国富統計を割り増しすれば、軍備の方では有利かもしれないがそのために莫大な負担金をとられることになるので、正しいありのままのものを提出するのが一番良いことだ。どうかひとつ閣議のほうが無事にとおるように」とお願いしたのであります。

現在は国際連合というものがあり、これにも軍備縮小委員会と経済委員会がありまして、軍備縮小委員会のほうはなにしろ米、ソ両国の力が非常に強いので、この二国が承知しない限りどうにもならない。いろいろもめているようですが、そのかわり経済委員会のほうは成功で、富のある国は貧しい国に援助を与えようということになりましたが、欧州とアジアではいろんな点でピッチが合わない。そこでアジアだけで会議を持つことになりました。アジア経済委員会、俗にいうエカツエがこれです。インドのニューデリーで開かれたエカツエ会議の議題が、国民所得統計の問題に関するものでありますので、私も出席いたしました。国家の富をはかるには国民の所得統計によるのでありますが、それを作る方法が各国にまちまちでは比較できないので、これらを調整したわけです。ちなみに、3週間ばかり前に、昭和29年の日本の国民所得は6兆14億円で発表されております。

現在のインドではネール首相がせんとうに立つて、統計を基礎にして、独立後の復興をはかつております。私は1ヶ月ばかりインドに滞在しましたが、インドは人口3億4千万人で世界第2位ですが、その9割までは裸、裸足の生活をしています。非常に生活程度はひくい。現在の5~6%生活程度をたかめるための物資の量は莫大なものになりましょう。申々大変なことであります。あまり長くなりますのでこの辺で終ることにいたします。

(拍手)

—おわり—

夏期農業基本調査結果の概要 (その1)

(昭和30年8月1日調査)

農 林 調 査 係

昭和30年8月夏期農業基本調査を実施したが、各項目ごとの結果概要は次のとおりである。

本県の農業は213,243戸の農家、274戸のその他の農業事業体及び14戸の例外規定の家によって営まれている。

1. 農業事業体数について

下表は過去5年間の比較を示す。

年 度	農 家	比 率	そ の 他 の 農 業 事 業 体	比 率
昭 和 26 年	214,271	100%	362	100%
〃 27 〃	213,481	99.6%	301	83.1%
〃 28 〃	212,638	99.2%	319	88.1%
〃 29 〃	212,844	99.3%	293	80.9%
〃 30 〃	213,517	99.6%	274	75.7%

昭和26年夏期調査を100とし毎年8月1日現在とした。

2. 自小作別農業事業体数について

この調査では、自作農127,283戸(総農家数の59.6%)
自小作農64,520戸(30.2%)小自作農12,722戸(6%)小作農8,600戸(4%) その他118戸(0%)となり所有地が経営耕地面積の5割以上の農家(自作、自小作)は 191,803戸

て総農家数の89.8%となり、これを前年同期調査と比較すると自作農1.4%増、自小作農0.9%増、小自作農0.6%減、小作農8.6%減となっている。

次表は過去5年間の比較を示す。

年 度	自 作 農		自 小 作 農		小 自 作 農		小 作 農		そ の 他	
	農家数	%	農家数	%	農家数	%	農家数	%	農家数	%
昭 和 26 年	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
〃 27 〃	122,308	100%	65,034	100%	15,072	100%	10,804	100%	263	100%
〃 28 〃	122,177	99.9%	66,613	102.4%	13,886	92.1%	9,849	91.2%	113	43.0%
〃 29 〃	125,526	102.6%	63,956	98.3%	13,552	89.9%	9,407	87.0%	110	41.8%
〃 30 〃	127,283	104.1%	64,520	99.2%	12,722	84.4%	8,600	79.6%	118	44.9%

(注) 昭和26年は自小作別に調査せず、昭和27年夏期調査を100とした。

第1表 経営耕地面積広狭別農業事業体数

	総 数	農 家						そ の 他 の 農 業 事 業 体
		総 数	自 小 作 別					
			自 作	自 小 作	小 自 作	小 作	そ の 他	
総 数	213,517	213,243	127,283	64,520	12,722	8,600	118	274
経営耕地面積広狭別(農家)								
農 家 計	213,503	213,229	127,278	64,520	12,722	8,594	115	274
5 畝 ~ 1 反	4,376	4,335	2,511	234	205	1,380	5	41
1 反 ~ 3 反	26,564	26,423	16,005	3,756	2,254	4,393	15	141
3 反 ~ 5 反	26,649	26,620	15,250	6,825	2,924	1,602	19	29
5 反 ~ 1 町	62,928	62,911	34,154	22,823	4,977	936	21	17
1 町 ~ 1.5町	52,920	52,918	31,208	19,596	1,865	238	11	2
1.5町 ~ 2町	28,080	28,079	18,822	8,750	430	35	42	1
2町 ~ 3町	11,309	11,302	8,755	2,468	67	10	2	7
3町 ~ 5町	641	628	561	67	—	—	—	13
5町 ~ 10町	27	13	12	1	—	—	—	14
10町 以上	9	—	—	—	—	—	—	9
例外規定の農家	14	14	5	—	—	6	3	—

3. 農家人口について

本県の農家人口は1,315,364人で総人口の63.5%となる、性別にみれば、男642,549人(48.9%)、女672,815人(51.1%)で、女の方が80,266人多くなっている。年令別

にみると15才未満453,592人(34.5%)15才~60才728,669人(55.4%)60才以上133,103人(10.1%)となり、前年同期調査より総数で2,835人(2.1%)増加している。次表は過去4年間の比較を示す。

年 度	総 数			比 率	15才未満	15才~60才	60才以上
	計	男	女				
昭 和 27 年	1,322,199	647,192	675,007	100%	449,952	737,294	134,953
〃 28 〃	1,314,500	643,575	670,925	99.4%	456,906	730,693	126,901
〃 29 〃	1,312,529	642,412	670,117	99.3%	447,107	734,404	131,018
〃 30 〃	1,315,364	642,549	672,815	99.5%	453,592	728,669	133,103

第2表 農 家 人 口 (常住世帯員)

	総 数			15才未満	15才~60才	60才以上
	計	男	女			
總 数	1,315,364	642,549	672,815	453,592	728,669	133,103
市 計	288,555	141,067	147,488	96,729	162,875	28,951
水戸市	26,339	12,872	13,467	8,605	15,230	2,504
日立市	28,421	13,826	14,595	9,600	15,968	2,853
土浦市	22,776	11,285	11,491	6,562	13,733	2,481
古河市	6,417	3,110	3,307	2,246	3,545	626
石岡市	16,365	8,070	8,295	5,225	9,518	1,622
下館市	29,051	14,229	14,822	10,353	15,876	2,822
結城市	24,074	11,694	12,380	8,613	13,184	2,277
竜ヶ崎	20,799	10,075	10,724	6,655	12,143	2,001
那珂妻	14,180	6,865	7,315	4,775	7,880	1,525
下妻市	22,010	10,780	11,230	7,829	11,981	2,200
水戸市	21,677	10,471	11,206	6,869	12,420	2,388
常陸太田市	27,616	13,474	14,142	9,139	15,513	2,964
勝田市	18,653	9,150	9,503	6,341	10,538	1,774
高萩市	10,177	5,166	5,001	3,917	5,346	914
郡 計	1,026,809	501,482	525,327	356,863	565,794	104,152
東 郡	115,054	56,350	58,704	40,923	62,518	11,613
西 郡	68,003	33,183	34,820	23,539	37,526	6,938
那 郡	92,349	45,136	47,213	32,559	50,091	9,699
久 郡	60,345	29,302	31,043	22,295	31,505	6,545
多 郡	30,211	14,766	15,445	10,627	16,512	3,072
鹿 郡	92,742	44,931	47,811	34,265	50,273	8,204
行 郡	60,396	29,393	31,003	21,617	33,423	5,356
稻 郡	94,056	45,914	48,142	30,477	53,823	9,756
新 郡	77,421	38,106	39,315	25,200	43,983	8,238
筑 郡	80,376	39,600	40,776	24,432	47,332	8,612
真 郡	63,666	30,935	32,731	22,500	34,706	6,460
結 郡	46,277	22,606	23,671	16,457	24,921	4,899
猿 郡	104,221	50,947	53,274	38,444	55,306	10,417
北 郡	41,692	20,313	21,379	13,528	23,821	4,343

4. 農業従事者数について

本県農家人口1,315,364人のうち農業従事者数は593,502人で、農家人口の45.1%となる、従事者数を年齢別にみると、15才未満1,283人(0.2%)15才～60才 550,151人(92.7%)60才以上 42,068人(7.1%)となり、これを階層別に15才未満60才以上の農業従事者を比較してみると、経営規模の小なる程15才未満、60才以上の、いわゆる非労働力人口の就業割合が高い、これは労働力不足なるが

ためでなく、生活の窮迫を補うためのものであり、これら小規模農家の重点は、兼業におかれ農業は従である傾向を示している、一農家当りの従業者数は2.78人で性別にみると男1.31人女1.47人で男女の比は男47.3%女52.7%であり女子の方が多く、本県農業が女子労働に依存することが大であることを示している。次表は過去4年間

年 度	総 数			比 率
	計	男	女	
昭 和 27 年	595,734	287,646	308,088	100%
〃 28 〃	586,213	281,363	304,850	98.4%
〃 29 〃	589,356	279,117	310,239	98.9%
〃 30 〃	593,502	280,875	312,627	99.6%

第2表の2 経営耕地面積広狭別農業従事者数

	総 数			15才未満	15才～60才	60才以上
	計	男	女			
總 数	593,502	280,875	312,627	1,283	550,151	42,068
5 畝 ～ 1 反	5,682	1,888	3,794	160	4,628	894
1 反 ～ 3 反	41,400	16,008	25,392	150	35,936	5,314
3 反 ～ 5 反	53,571	23,371	30,200	152	47,897	5,522
5 反 ～ 1 町	166,943	79,310	87,633	333	154,666	11,944
1 町 ～ 1.5町	173,065	84,735	88,330	257	162,658	10,150
1.5町 ～ 2 町	103,973	51,051	52,922	153	98,195	5,625
2 町 ～ 3 町	46,041	23,062	22,979	68	43,514	2,459
3 町 ～ 5 町	2,762	1,416	1,346	10	2,594	158
5 町 ～ 10町	65	34	31	—	63	2
10 町 以上	—	—	—	—	—	—

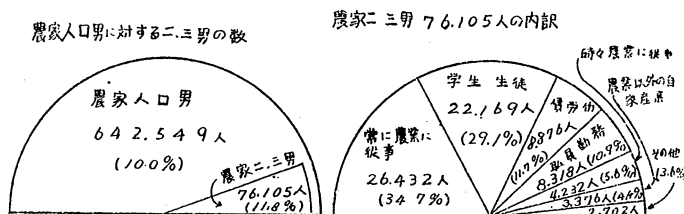
5. 農家二、三男について(常住)

本県農家にふだん住んでいるもの内、戸籍上のいかにかわらず将来その家をはなれて、独立又は分家することを予定している満15才から30才までの男子について調査したがその数は76,105人で、農家人口男の11.8%にあたる。これがいわゆる農家二、三男である。次表は二、三男の項目別人員を示す。

て調査したがその数は76,105人で、農家人口男の11.8%にあたる。これがいわゆる農家二、三男である。次表は二、三男の項目別人員を示す。

	総 数	ふ だ ん 家 に い る 二、三 男(満15才～30才)						
		自家農業に従事 常に従事する	農業以外の 自家産業	職員勤務	賃労働	学生、生徒	その他	
二、三男の数	76,105	26,432	4,232	3,376	8,318	8,876	22,169	2,702
比 率	100%	34.7%	5.6%	4.4%	10.9%	11.7%	29.1%	3.6%

(注) 農家二、三男については次の六項について調査した。



- (1) 自家農業に従事とは、家族で自家農業に従事している者であつて年間60日以上農業に従事した者。
 イ、常に従事とは、自家農業経営上是非必要な働き手となるもの。
 ロ、他に職なく時々従事とは、現在さまつた職業もなく時々自家農業を手伝う者。
- (2) 農業以外の自家産業に従事とは、家族として農業の外自家で経営している産業（林業及び狩猟業、漁業及び水産養殖業、建設業、製造業、卸売及び小売業、金融及び保険業、不動産業、運輸通信及びその他の公益事業、サービス業）などに従事している者。
- (3) 職員勤務とは、市町村吏員、団体職員（農協常勤理事など報酬を受ける役職員を含む）警察官、自衛隊員事務職員、技術職員、教員などの職についている者。
- (4) 賃労働とは、恒常的に雇われる常雇、従弟及び入夫等と、臨時的な日雇、季節雇、季節出稼など。
- (5) 学生、生徒とは、本来が学生、生徒であるから、たとえ年間60日以上自家農業の手伝をして、学生生徒とする。
- (6) その他とは、(1)～(5)までのいずれにも該当しないもの、たとえば病弱者、不具者及び純無業者、または年間60日未満自家農業を手伝つた者などが全部ここに含める。

第3表 農家二、三男の数

	総数	ふだん家にいる二、三男の数（満15才～80才）						
		自家農業に従事		農業以外の自家産業	職員勤務	賃労働	学生、生徒	その他
		常に従事	時々従事					
總数	76,105	26,432	4,232	3,376	8,318	8,876	22,169	2,702
水戸市	2,603	377	142	89	483	376	953	183
日立市	1,908	115	77	103	274	699	597	43
土浦市	5,559	3,485	72	274	740	75	876	37
古河市	316	49	25	18	59	90	69	6
石岡市	994	285	54	49	137	127	309	33
下館市	1,606	417	137	50	169	273	498	62
結城市	1,163	485	61	59	92	148	287	31
竜ヶ崎	918	256	47	42	117	157	258	41
那珂湊	988	48	101	98	107	290	275	69
下妻市	1,069	412	42	75	103	130	272	35
水海道	1,281	476	51	40	120	178	355	61
常陸太田	1,214	175	81	66	161	273	423	35
勝田市	1,006	220	65	26	176	173	303	43
高萩市	647	182	159	100	79	64	44	19
東茨城郡	8,550	2,615	395	440	1,071	1,052	2,728	249
西茨城郡	4,320	1,404	264	136	441	478	1,488	109
那珂郡	4,954	1,397	377	197	654	575	1,569	185
久慈郡	2,675	700	197	107	227	384	950	110
多賀郡	1,750	229	137	134	177	512	495	66
鹿島郡	3,964	1,512	215	152	286	318	1,374	107
行方郡	2,777	1,096	134	117	251	213	859	107
稲敷郡	4,488	2,042	200	95	383	340	1,298	130
新治郡	3,411	1,335	151	132	326	218	966	283
筑波郡	4,521	1,752	214	133	538	346	1,375	163
真壁郡	4,681	2,016	265	211	372	417	1,222	178
結城郡	2,705	1,058	157	177	171	232	820	90
猿島郡	3,904	1,594	291	197	344	404	925	149
北相馬郡	2,133	700	121	59	260	334	581	78

昭和 29 年 工 業 統 計

調 査 課 商

(従業者 4 人以上の事業所)

産業中分類別、郡市別、事業所数、従業者数、

郡 市 別	区 分	事業所数	従 業 者 数 及 び 現 金							
			従 業 者 総 数			現金給与 総 額	職 員		勞 務 人 員 数	
			男	女	計		人 員 数	給 与 額		
木 材	お 品	よ び	389	3,065	467	3,532	297,121	527	68,254	2,746
水 日	戸 立	市 市	20	182	22	204	19,587	34	4,965	166
土 古	浦 河	市 市	14	135	40	175	15,348	29	2,998	139
石	岡	市 市	15	112	8	120	10,201	20	2,896	88
		市 市	7	33	8	41	4,007	11	1,560	29
		市 市	21	104	9	113	6,010	2	280	77
下 結	館 城	市 市	6	38	5	43	4,899	10	1,878	32
竜 那	ヶ 珂	市 市	11	81	8	89	8,465	15	2,603	69
下	妻	市 市	6	39	1	40	4,129	8	1,039	27
		市 市	2	x	x	x	x	x	x	x
		市 市	3	18	—	18	1,703	3	634	13
水 常	海 道	市 市	8	54	1	55	4,427	2	246	44
陸 勝	太 田	市 市	25	197	16	213	16,769	40	4,518	161
高	菰	市 市	2	x	—	x	x	—	—	x
		市 市	20	266	75	341	31,770	58	6,813	275
東 西	茨 城	郡 郡	28	172	20	192	14,306	32	4,179	135
那 久	珂 慈	郡 郡	23	200	19	219	21,513	35	4,729	172
多	賀	郡 郡	37	266	41	307	19,405	51	4,781	236
		郡 郡	61	481	74	555	40,515	63	8,580	448
		郡 郡	31	380	88	468	45,971	71	9,939	378
鹿 行	島 方	郡 郡	3	15	—	15	489	—	—	11
稻 新	敷 治	郡 郡	4	25	1	26	2,372	2	320	21
筑	波	郡 郡	9	47	2	49	5,945	9	1,106	37
		郡 郡	9	57	7	64	4,714	9	920	49
		郡 郡	7	34	12	46	2,604	2	192	34
真 結	壁 城	郡 郡	8	56	3	59	5,261	11	1,598	45
猿 北	島 馬	郡 郡	1	x	x	x	x	x	x	x
		郡 郡	4	17	3	20	1,365	2	253	13
		郡 郡	4	18	1	19	2,262	4	627	13
家 具	お 品	よ び	58	501	36	537	48,790	77	8,718	421
装 備	製 造	業								
水 日	戸 立	市 市	15	150	15	165	16,559	29	3,346	131
土 古	浦 河	市 市	5	48	5	53	6,856	4	798	47
石	岡	市 市	3	19	—	19	2,163	1	80	13
		市 市	1	x	x	x	x	x	x	x
		市 市	7	42	2	44	3,180	3	296	31
下 結	館 城	市 市	2	x	x	x	x	x	x	x
常 陸	妻 太	市 市	4	52	3	55	4,327	7	622	43
勝	田	市 市	1	x	x	x	x	x	x	x
		市 市	4	30	1	31	2,704	3	334	27
		市 市	2	x	—	x	x	x	x	x
東 西	茨 城	郡 郡	3	18	1	19	1,344	4	402	13
那 久	珂 慈	郡 郡	3	25	—	25	1,394	3	256	16
多	賀	郡 郡	1	x	—	x	x	x	x	x
		郡 郡	2	x	x	x	x	x	x	x
		郡 郡	2	x	—	x	x	x	x	x
稻 筑	敷 波	郡 郡	2	x	—	x	x	x	x	x
		郡 郡	1	x	x	x	x	—	—	x

調査結果速報 (その4)

工調査係

現金給与額、製造品出荷額及び経営支出額

(金額単位千円)

給与額			製造品出荷額等				経営支出額等		
者 給与額	個人業主 及び家族 従業員	臨時日雇 給与 退職金等	総額	製造品 (内) 出荷額		加工賃 (内) 収入額	純出荷額	総額	(原材料 内) 使用額
				212,648	259				
14,457	4	165	127,260	121,403	5,267	127,260	86,260	84,488	
11,964	7	386	103,224	101,472	1,087	103,224	74,891	71,765	
6,220	12	1,085	91,542	90,589	641	91,542	59,012	57,511	
2,366	1	81	23,297	22,321	—	23,297	18,522	18,229	
5,629	34	101	44,049	42,202	1,820	44,049	30,768	29,846	
2,921	1	100	26,297	25,433	732	26,297	18,428	16,838	
5,852	5	10	47,548	47,421	58	47,548	32,816	31,554	
2,987	5	103	12,176	8,706	3,330	12,176	6,042	5,190	
x	—	—	x	x	x	x	x	x	
1,019	2	50	14,938	14,838	—	14,938	8,452	8,162	
4,080	9	101	26,300	24,600	988	26,300	15,007	14,008	
11,005	12	1,246	147,200	140,453	295	147,200	111,566	108,753	
x	x	—	x	x	x	x	x	x	
21,640	8	3,317	285,116	284,428	666	285,116	223,914	216,892	
9,635	25	492	107,403	104,387	2,720	107,403	81,946	78,421	
15,459	12	1,325	161,741	158,024	2,932	161,741	124,207	120,407	
13,376	20	1,248	196,077	192,414	3,431	196,077	160,416	155,171	
29,684	44	2,251	355,113	346,715	7,659	355,113	269,535	259,774	
34,384	19	1,648	342,358	339,184	3,156	342,348	256,627	247,596	
479	4	10	3,299	3,299	—	3,299	1,947	1,842	
1,872	3	180	12,579	12,085	490	12,579	8,762	8,500	
2,999	3	1,840	28,329	25,673	2,479	28,329	18,843	18,300	
3,764	6	30	50,097	49,256	841	50,097	40,705	39,724	
2,367	10	45	10,498	9,854	609	10,498	5,417	5,100	
3,294	3	369	33,477	32,865	417	33,477	23,756	23,421	
x	—	—	3,158	3,158	—	3,158	2,709	2,348	
1,112	5	—	5,104	4,475	599	5,104	2,890	2,688	
1,599	2	36	7,590	6,064	1,406	7,590	4,065	3,925	
39,220	39	852	193,038	189,007	884	192,558	100,576	93,288	
13,108	5	105	62,772	60,572	—	62,579	27,106	24,691	
5,943	2	115	24,558	24,265	71	24,475	13,026	11,625	
2,063	5	20	8,962	8,735	180	8,962	4,583	4,300	
x	—	—	x	x	x	x	x	x	
2,662	10	222	13,989	13,717	43	13,959	8,268	7,878	
x	—	—	x	x	—	x	x	x	
3,693	5	12	13,785	13,657	—	13,731	8,050	7,601	
x	—	—	x	x	x	x	x	x	
2,310	1	60	13,381	13,371	—	13,332	5,936	5,531	
x	x	—	x	x	x	x	x	x	
860	2	82	5,631	5,623	—	5,631	3,453	3,278	
1,087	6	51	7,112	7,107	—	7,112	4,139	3,932	
x	—	—	x	x	—	x	x	x	
x	—	—	x	x	—	x	x	x	
x	—	x	x	x	x	x	x	x	
x	—	x	x	x	x	x	x	x	
x	x	x	x	x	—	x	x	x	

区 分 郡市別	事業所数	従業者数			及び現金			
		従業者総数			現金給与 総額	職員		労務 人員数
		男	女	計		人員数	給与額	
紙製及似品業	20	273	287	560	42,992	56	7,741	483
水戸市	5	106	56	162	15,267	23	3,262	138
日立市	1	x	x	x	x	x	x	x
土浦市	1	x	x	x	x	x	x	x
石岡市	2	x	x	x	x	x	x	x
下館市	3	26	9	35	3,350	4	715	25
水海道市	1	x	x	x	x	x	x	x
常陸太田市	3	14	19	33	1,638	2	247	27
久慈郡	2	x	x	x	x	x	x	x
稲北郡	1	x	x	x	x	x	x	x
印刷及似業	72	861	185	1,046	112,435	234	33,357	754
水戸市	26	457	75	532	66,290	151	22,469	367
日立市	4	38	11	49	4,979	7	1,115	40
土浦市	6	89	10	99	8,884	26	2,802	65
古河市	4	19	7	26	2,451	1	310	17
石岡市	2	x	—	x	x	x	x	x
下館市	4	46	9	55	6,024	10	1,516	43
結城市	1	x	—	x	x	—	—	x
下妻市	2	x	x	x	x	x	x	x
水海道市	1	x	x	x	x	x	x	x
常陸太田市	5	63	20	83	5,349	9	783	66
勝高市	1	x	x	x	x	—	—	x
茨城郡	2	x	x	x	x	x	x	x
西那郡	1	x	x	x	x	x	x	x
久慈郡	1	x	—	x	x	x	x	x
多賀郡	2	x	x	x	x	x	x	x
鹿嶋郡	2	x	x	x	x	x	x	x
行方郡	1	x	x	x	x	x	x	x
稲敷郡	1	x	x	x	x	—	—	x
猿島郡	3	17	4	21	2,031	4	636	15
化学工業	28	492	156	648	109,499	205	48,336	424
水戸市	4	26	8	34	4,257	7	1,465	20
日立市	1	x	x	x	x	x	x	x
土浦市	1	x	x	x	x	—	—	x
石岡市	1	x	x	x	x	x	x	x
下館市	1	x	x	x	x	—	—	x
常陸太田市	4	56	11	67	10,411	15	2,836	49
勝高市	3	20	7	27	2,012	6	602	18
常陸太田市	1	x	x	x	x	—	—	x
東茨城郡	1	x	x	x	x	x	x	x
西茨城郡	2	x	x	x	x	x	x	x
那珂郡	1	x	—	x	x	x	x	x
鹿嶋郡	1	x	x	x	x	x	x	x
行方郡	1	x	x	x	x	x	x	x
稲敷郡	2	x	x	x	x	x	x	x
新井郡	1	x	x	x	x	x	x	x
真壁郡	1	x	x	x	x	x	x	x
猿島郡	1	x	x	x	x	x	x	x

(続)

給与額			製造品出荷額等			純出荷額	経営支出額等	
者	個人業主 及家族 従業者	臨時日雇 給与 退職金等	総額	製造品 (内) 出荷額	(加工賃 (内) 収入額		総額	(原材料 (内) 使用額
34,461	21	790	482,763	471,354	9,962	482,763	385,876	345,711
11,652	1	353	148,395	148,395	—	148,395	99,178	89,170
x	x	—	x	x	—	x	x	x
x	x	x	x	x	—	x	x	x
2,635	6	—	27,753	27,353	400	27,353	25,151	20,297
x	—	—	x	x	—	x	x	x
1,263	4	128	10,959	10,903	—	10,959	8,637	8,335
x	x	—	x	x	—	x	x	x
x	x	x	x	—	x	x	x	x
x	x	—	x	x	—	x	x	x
76,775	58	2,303	447,634	439,196	7,468	447,634	190,452	173,529
42,204	14	1,617	260,339	254,938	5,187	260,339	104,742	91,354
3,639	2	225	12,713	12,609	80	12,713	3,498	3,191
5,960	8	122	34,991	34,423	514	34,991	11,383	10,509
2,011	8	130	8,183	7,776	400	8,183	4,120	3,906
x	x	—	x	x	—	x	x	x
4,438	2	70	18,220	17,490	720	18,220	9,514	9,221
x	x	x	x	x	—	x	x	x
x	x	—	x	x	—	x	x	x
x	—	—	x	x	—	x	x	x
x	—	—	x	x	—	x	x	x
4,562	8	4	59,048	58,072	338	59,048	31,739	31,283
x	x	x	x	x	—	x	x	x
x	x	—	x	x	—	x	x	x
x	x	—	x	x	—	x	x	x
x	x	—	x	x	—	x	x	x
x	x	—	x	x	x	x	x	x
x	x	—	x	x	—	x	x	x
x	x	—	x	x	—	x	x	x
1,375	2	20	4,881	4,880	—	4,881	1,898	1,746
59,126	19	2,037	1,155,230	1,132,477	22,515	1,155,230	776,462	734,864
2,516	7	276	163,501	163,295	—	163,501	154,473	151,204
x	x	x	x	x	—	x	x	x
x	x	—	x	x	x	x	x	x
x	x	—	x	x	x	x	x	x
7,575	3	—	45,502	24,027	21,443	45,502	26,559	25,012
1,303	3	47	46,565	45,992	573	46,565	22,524	21,370
x	x	x	x	x	—	x	x	x
x	—	—	x	x	—	x	x	x
x	—	x	x	x	—	x	x	x
x	—	—	x	x	x	x	x	x
x	—	—	x	x	—	x	x	x
x	—	—	x	x	—	x	x	x
x	—	—	x	x	—	x	x	x
x	—	x	x	x	—	x	x	x
x	—	—	x	x	—	x	x	x
x	—	—	x	x	—	x	x	x
x	—	—	x	x	—	x	x	x
x	—	—	x	x	—	x	x	x

生産動態統計調査

昭和30年11月度分

織 維 部 門

(調査課商工調査係)

本表は、生産動態統計調査規則に定められている繊維工場を調査対象としたものであるが、特紡糸和紡糸以外の紡績工場、および抽出調査工場は含まれていない。

(1) 工場、労務者及び設備運転状況

部門別	業種別	工場数			在籍従業者			設備						
		全工場	操業	操業度	男	女	計	機種	単位	運転可能	運転不能	実働	稼働率	
		384	377	98	590	1,714	2,304							
紡績	特紡糸	7	7	100	30	95	125	紡リ和	機	計	錘	17,104	6,656	—
	和紡糸							機	機	機	2,896	—	—	
											14,208	6,656	—	
織物	計	337	335	99	312	1,016	1,328	織	機	計	台	1,709	121	1,104
	綿織物	20	19	95	71	294	365	広	巾	(27吋以上)	”	598	52	348
	絹織物	317	316	100	241	722	963	小	巾	(27吋未満)	”	297	14	127
								手	機	踏	”	814	55	629
製品	メリヤス製	10	10	100	62	134	196	ミ	シ	ン	台	43	7	24
								編	機	計	”	225	156	135
								横	手	袋	”	117	18	90
								丸	靴	外	”	68	104	11
								編	生	下	”	22	10	22
	製	品						丸	靴	生	”	18	24	12
雑織維製品	4	4	100	6	14	20	撚	糸	機	錘	1,945	—	835	
							製	網	機	”	243	—	13	
							手	動	製	”	233	—	8	
							力	製	機	”	10	—	5	
縫製品	19	14	74	85	380	465	電	裁	断	台	18	6	13	
							ミ	シ	ン	”	531	170	250	
							動	力	ミ	”	404	137	236	
							足	踏	ミ	”	127	33	14	
その他	製綿	7	7	100	95	75	170	梳	綿	機	台	25	—	18
								廻	切	機	”	56	—	42

(2) 生産状況

部門別	品目別	単位	生産高			引渡高			月度末在庫高		
			当月度	前月	前年同月	当月度	前月	前年同月	当月度	前月	前年同月
				100対比	100対比		100対比	100対比		100対比	100対比
紡績	計	封度	62,666	97	93	63,402	99	94	2,283	104	35
	落綿糸	”	47,600	99	82	48,000	101	86	550	58	12
	特紡糸	”	4,950	100	—	5,000	100	—	125	71	—
	和紡糸	”	10,116	87	108	10,402	90	92	1,608	151	83

昭和30年11月度分

機械鑄物部門

索引 番号	製品名 用途別	生 産		出 荷		自己消費	月末在庫
		重 量(kg)	金額(千円)	重 量(kg)	金額(千円)	重 量(kg)	重 量(kg)
	銑 鉄 鑄 物	127,245	6,998	112,575	6,135	17,913	22,577
01	産業機械器具用	76,591	4,156	63,539	3,498	11,945	6,977
02	繊維機械器具用	—	—	—	—	—	—
03	鉄道及び車輛用	9,698	591	9,698	591	—	—
04	電気及び通信機器用	6,460	367	6,460	367	—	—
05	農水産機器用	—	—	—	—	—	—
06	港湾及び船舶機器用	—	—	—	—	—	—
07	雑機械器具用	7,276	431	4,546	281	2,730	—
08	日用品	8,508	497	10,420	472	2,438	15,600
09	鑄型及び鑄型定盤	16,980	896	16,180	866	800	—
10	その他	—	—	—	—	—	—
11	その他	1,732	60	1,732	60	—	—

製品名	工場数		月間生産高	月間出荷高	月末在庫高	資材名	消費(kg)	月末在庫(kg)
	対象	操業	前月100対比	前月100対比	前月100対比			
銑鉄鑄物	11	11	110	110	87	銑鉄 故銑 鋼屑	53,358 94,056 4,110	60,160 27,787 1,649

索引 番号	調査項目 用途別	生 産		青 銅 鑄 物		黄 銅 鑄 物	
		銅 鑄 物		青 銅 鑄 物		黄 銅 鑄 物	
		重 量(kg)	金額(千円)	重 量(kg)	金額(千円)	重 量(kg)	金額(千円)
	銅 合 金 鑄 物	—	—	12,829	5,501	3,008	1,079
01	産業機械器具用	—	—	2,053	962	395	156
02	電気及び通信機器用	—	—	4,035	1,564	—	—
03	鉄道及び車輛用	—	—	—	—	—	—
04	港湾及び船舶機器用	—	—	2,016	1,057	—	—
05	軸受メタ	—	—	1,063	441	—	—
06	管継手	—	—	12	5	—	—
07	バルブコック	—	—	2,860	1,131	2,388	835
08	建用	—	—	160	82	225	88
09	日用品	—	—	—	—	—	—
10	その他	—	—	630	259	—	—

製品名	工場数		月 間 生 産 高		
	対象	操業	重 量(kg)	前月 100対比	金 額(千円)
銅合金鑄物	5	5	15,837	108	6,580

※ 本表の工場数は下記の定義に基いたものである。

1. 銑鉄鑄物については従業員10人以上100人未満の工場を対象とした。
2. 銅合金鑄物については従業員5人以上100人未満の工場を対象とした。
3. 上記以外の製品については、従業員20人以上100人未満の工場を対象とした。

昭和30年11月度分

雑 貨 部 門

対象工場数生産数量及び出荷数量において、2以下の事業所については公表を禁じられているので×をもって示した。
玩具、革靴、陶磁器は5人以上の事業所、漆器、金属洋食器、赤煉瓦は全事業所。

業 種	玩 具	革 靴	漆 器	金属洋食器	陶 磁 器	赤 煉 瓦
対 象	3	5	13	1	27	4
操 業	3	5	6	1	19	2
休 止	—	—	7	—	8	1

生産及び出荷状況（前月対比は前月を100とする）

業 種	区 分 製品名	単 位	生 産 数 量		出 荷 数 量						月 末 在 庫 数 量	
			数 量	前 月 対 比	金 額 (円)	国 内			輸 出			
						数 量	前 月 対 比	金 額 (円)	数 量	前 月 対 比		金 額 (円)
玩 具	金属製玩具	個	59,280	125	1,929,002	23,244	146	788,498	36,036	115	1,140,504	—
	プラスチック製玩具	〃	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	セルロイド製玩具	〃	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
革 靴	男子総革製靴	足	964	148	—	889	121	1,597,400	—	—	—	447
	婦人総革製靴	〃	99	98	—	100	122	244,700	—	—	—	242
	一部に革以外のものを使用したもの	〃	30	64	—	36	47	56,000	—	—	—	32
	サンダール	〃	—	—	—	4	—	6,000	—	—	—	—
漆 器 (木製)	食器類	個	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	食卓子、盆、類	〃	740	121	103,300	740	123	103,300	—	—	—	30
	その他の	〃	1,555	136	617,550	1,555	136	617,550	—	—	—	105
	その他	〃	50	—	7,500	50	—	7,500	—	—	—	3
金属洋食器	スプーン	打	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	フォーク	〃	×	—	×	×	—	×	—	—	—	—
	ナイフ	〃	×	—	×	×	—	×	—	—	—	—
陶 磁 器	電気用品	瓦	33,280	91	—	33,280	91	9,640,000	—	—	—	—
	特別高压碍子	〃	2,140	119	—	2,140	119	1,970,000	—	—	—	—
	高压用碍子	〃	2,790	100	—	2,790	100	2,800,000	—	—	—	—
器	厨房用品(その他)	〃	365,535	256	—	340,296	228	240,296	—	—	—	149,706
	衛生用品(その他)	〃	20,320	254	—	30,320	433	336,000	—	—	—	9,900
	その他(その他)	〃	—	—	—	100	6	90,000	—	—	—	—
赤 煉 瓦	屯	180	104	—	125	72	685,000	—	—	—	317.5	

健一は久しぶりで、2年間姿を見せなかつたここに、一クリスマスの夜の、雑沓の中のキヤバレーの一隅に、腰を下ろしていた。しかし、2年前彼がここで見せた陽気な姿は、今夜は、どこにもうかがうことができなかつた。

彼は1昨年のクリスマスをやはりこのキヤバレーで過ごした。この市のM商事に勤務して以来のなじみだつた。そしてその時の彼は、クリスマスの直前、かなり離れたI町の支店に転勤を命ぜられていたのだつた。彼はその命令に少なからず失望した。しかし彼には、それを押しつける若さがあつた。『近い将来には、また本店へ帰らなければ』と思つた。『支店勤めは勉強のためだ。本店に帰る時は必ず昇進を約束させないではおかないぞ、』と心の中で力んでいた。そのためか、転勤を命ぜられたにも拘らず、1昨年の彼には大部元気があつた。

しかし今2年経つた今夜、彼の希望どおりに、本店に榮転して帰つたにしては、彼は、全く元気がなかつた。1昨年の彼と逆にした方が適当じやないかと疑われる程だつた。彼の頭の中はあのI町の支店で、転勤の時の意気そのままに立振舞つた彼と、傍のY子の姿で一ぱいだつた。そして今I町を離れて、彼女に対する感情が、意外に離れ難く強いことに驚いているのだつた。そこでは与えられた自分の仕事は本店のそれよりも独立してやり甲斐のあることに喜びを感じて、彼女にはかなりきびしく、仕事の協力を求めたのだつた。彼女は、本店の女の子には見られなかつた熱心さで、彼に協力してくれた。仕事は、首尾よく進んで行つた。彼は、支店の人々から

も、漸く認められつつあることを感じた。それと共に『彼女の協力に対して、何か礼をしなくては』と考えた。2人は秋の1日、I町から程近い観光地のK市で過ごした。1日中、そして帰つてから彼はその思い出に幸福を感じ満足していた。その中に、彼に榮転の命令が出た。

そして今夜I町を離れて、2年間の或いはまた秋の1日の彼女の姿が、言葉が、眼が、あまりにも鮮かに思い出されるのに、彼は圧倒された。彼は、仕事を通じて彼女に感じていた友情が意外に強い情熱であつたことを、今更に驚きをもつて思い直してみるのだつた。彼は夢中で自分の気持をみつめていた。

しばらくして、彼は我にかへつた。そして『おそまきながら、贈りものとカードを送ろう。「来る年の貴女の御多幸を祈ります。過ぎ去つた年の、2人の幸福の記念に』と自分に言いきかせた。彼は、一息にコップのビールを飲み干して、街に出た。ビールの苦味と師走の風にうるんだ彼の眼に、ネオンの光が、にじんだように明滅していた。

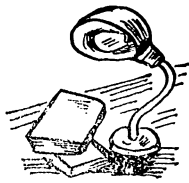


○・予想人口懸賞1位当選の感想・○

那珂郡瓜連町 今 瀬 サ タ

過日の新聞紙上に国勢調査の結果による本県の人口概数が発表されたとき、私の人口予想がこれに6名だけ足りないことを知りましたが、入賞の見込みがあるかなと思つた程度で、今回の当選発表の如く1位に入賞するとは夢にも考えませんでした。全く驚きと喜びで胸がパイです。

この喜びと同時に本県の統計思想普及運動に協力させていただき、一県民としてその責任の一端を果し得た満足を感じております。今回の国勢調査を機会に調査統計事業が私たち郷土の人々の生活の中へ、数字の観念を吹き込んで、生活の合理化と文化の向上のために役立つことを心から願つております。



統 計 用 語 の 解 説

〔加工貿易〕 原料や半製品あるいは委託加工契約による品物などを輸入して、これを加工して再び輸出することである。

〔建値〕 生産者が公表した製品の標準価格のことで、生

産者が問屋に製品を売るときは通常この方法で販売されている。

〔イージ・ペイメント〕 容易な支払いとか、分割払いとかで、いわゆる月賦販売のことである。

編 集 室

◎私たちは慌しい昭和30年に別れを告げて、ここに新しい希望に満ちた31年を迎えたが、今年位明るい正月は戦後初めてである。それは昨年における豊作景気、数量景気に加えて、約5億ドルにのぼる国際収支の黒字を生んだわが国の輸出伸長と生産過剰による物価の横ばいによつて、国民生活は一般に安定したためでありましょう。しかし末だ一部には、その日の暮しに困っている人たちがいることは誠に御同情に堪えません。国民全体がお互いに助け合つて、一日も早くこれらの人たちが、一人もいなくなることを祈っております。

本誌も統計機関誌という特殊性のために、往々その内容が数字の羅列が多くなり、どうしても一般の人から嫌遠(?)される傾向があります。編集室としては、この弊害を何とか除こうと努力して参りましたが、まだまだ満足していただけないと思います。

今年は〔調査の窓〕や〔随想〕、〔解説〕、〔論説〕欄を拡充するとともに、新たに〔新市町村の横顔〕や〔統計川柳〕〔創作〕欄などを設けて、皆様の御期待にそいたいと思ひますから、なお一層の御指導、御協力の程、心からお願ひ申し上げます。

◎昨年末の県における大規模な機構改革によつて、総務部調査課は総合開発課や生活科学課と合体して、新たに調査企画課となるとともに、これに伴う人事異動のため、柏原課長をはじめ多くの親しい人たちが他へ転出され、新たに平野新課長をはじめ、新進気鋭の有能の士が沢山入られたが、お互いに今後の活躍を心からお願ひします。

◎表紙の字真は元旦にちなんで、大洗海岸の初日の出を掲載しました。波静かな濃紺の海の彼方より、さし昇る初日の光は誠に荘厳で、私たちは何の悩みも、屈託も消えて、心の奥底から洗い清められるような心境に

なります。荒磯のこけむす岩に飛び散るしぶき、潮の香漂う初潮はいかにもすがすがしい新春の譜を奏している。私たちは新しい希望と勇気をもつて、平和で明るい昭和31年の門出をいたしましょう。

統 計 だ よ り

☆12月17日……結城市区表審査会に中川、神原両主事が出席した。

☆12月20日……調査企画課誕生

☆12月19日……全国統計主管課長会議が東京都で開催され、山中課長補佐が出席した。

☆12月28日……御用納

☆1月4日……御用始

☆1月6日……常磐地域陸上輸送貨物調査事務打合せを県職員研修所で開催。

☆1月10日……支庁、統計係長会議を開催。

☆1月12日……東京湾地域大都市委員会が東京で開かれ平野課長、高橋補佐外係員が出席した。

☆1月13日……水海道市で統計調査員大会が開かれ、県より照山係長、田中主事、樋熊技師が出席した。

◆ 統 計 川 柳 ◆

繁栄は乾盃にあり祝賀式	耕 郎
昇給の権利放棄も親心	〃
ボーナスの枠の中なる屠蘇機嫌	〃
初詣一年分の運を賭け	二三四
一応は目出度さに明け四ツ島	〃
実を結ぶ開拓団の鏡餅	幡 春
豊作が下宿に届く餅の数	〃